

☆大紀町立大紀中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

子ども達の多くは、明るく素直で、人懐っこい性格であり、学習に対して真面目に取り組むことができます。しかし、家庭の生活状況等により、子ども達の自尊感情や学習意欲が低い実態も見られ、家庭学習の習慣が身につけていない子どももいます。

そのような子ども達の課題を学校・家庭・地域が話し合い、共有し、ともに活動することで、子ども達の自尊感情や学習意欲の向上を図る取組を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1)学習意欲を育む学習会活動への支援

地域の大人で構成された人権サークル「かたつむり」が中心となり、小学生を対象に学習支援を行いました。4回実施した夏季学習会では、家庭学習の習慣が定着していない子ども達も参加しており、「かたつむり」のメンバーの支援のもと、夏休みの宿題に取り組むことができました。子ども達は丁寧な支援を受け、粘り強く集中して学習に取り組むことができました。

子ども達からは、「楽しかった」「上手に書けた」等の感想があり、達成感とともに今後の学習への意欲が感じられました。



夏季学習会の様子

(2)地域の力による子ども支援

小学校では、クラブ活動に地域住民が講師として参加し、地域に根付いた体験活動になるよう取り組みました。地元産の魚を入れた炊き込みご飯でおにぎりを作ったり、近くの漁港で魚釣りをしたり、それぞれのクラブで様々な活動を行うことができました。

また、子ども達が普段お世話になっている地域の方々に、お礼と交流をする機会として「いきいき集会」を行いました。子ども達から、一人ひとりに感謝状を手渡し、その後、田植え体験で作った米を用いたおにぎりを一緒に食べながら交流をしました。子ども達は、たくさんの地域の方に支えられているということを実感する機会となりました。

他に、地域の高齢者から、けん玉やお手玉、めんこ、こま回し等の昔の遊びを教えていただく機会を持ちました。地域の方々にとっても、子ども達とふれあうことは楽しみであり、学校と地域のつながりを深める機会とすることができました。

中学校では、地域の茶道家が講師となり、茶道の体験活動を行いました。子ども達は、「茶道を習っていたが、お茶を点てるのは久しぶりで、ほめられてうれしかった」「靴の脱ぎ方など教えてもらったことを家でもやってみようと思った」等の感想を持ち、意欲的に活動するとともに普段の自分の生活について振り返る機会にもなりました。



地域住民との交流

(3)ネットワーク委員の研修

小中学校で行われていた人権学習の公開授業に、ネットワーク委員も参加し、研修を深めました。それぞれの学校で、子ども達にとって身近な学級の課題をもとにした学習が展開されました。子ども達は、悩みを持った仲間の気持ちにより添い、自分の問題と重ねながら話し合いをすることができました。参加者からは、「子どもの普段の姿がよく分かった」「もっと子ども達の様子を見ていかなければならない」等の感想が出され、ネットワーク委員一人ひとりの意識を高めていく上で、効果的な取組となりました。



人権集会の公開授業

◆実践を振り返って

ネットワークを通して、学校と地域がつながりを持ち、課題の共有を進めながら、協働の取組を進めることができました。これらの取組の中で、子ども達は、地域の多くの人に見守られ、認められる体験をし、「自分にはよいところがある」「必要とされている」という自尊感情を育むことができました。今後も、より学校・家庭・地域が協働したネットワークとなるよう取組の充実と発展を図り、子ども達の学習意欲と自尊感情を高めていく活動を進めていきたいと考えています。